

2010年度 ANAグループ航空輸送事業計画を策定 ～激変する環境に適応しながら「首都圏デュアル・ハブ」モデルを構築します～

ANAグループは、2010年度(2010年4月1日～2011年3月31日)の航空輸送事業計画を策定いたしました。景気回復が遅れている中、わが国の航空事業を取り巻く環境は厳しい状態が続いています。一方で2010年度は、昨年12月の日米オープンスカイ合意に続き、本年3月の成田増枠、10月の羽田再拡張、第3四半期(10月～12月)中のボーイング787初号機受領と、事業拡大の条件が整う一年でもあります。

経済動向や需給環境を見極めながら、このビジネスチャンスを着実に活かすべく、段階的に事業展開を進めてまいります。

2010年度 ANAグループ航空輸送事業計画の概要は次のとおりです。

1. 概要

(1) 国際線事業の概要

国際線を成長の柱と位置づけ、2010年の首都圏空港増枠を最大のビジネスチャンスとして、成田・羽田両空港におけるネットワークの拡充を図ります。一方で、B747-400国際線仕様機を年度内に全機退役させるなど需給適合を一層推し進め、生産性の向上を図ります。

成田発着路線

3月28日(日)からの成田空港発着枠増加を受け、新規路線の開設ならびに曜日運航路線のデイリー化を図ります。欧米路線については、7月1日(木)より、成田＝ミュンヘン線を開設します。アジア路線についてはホーチミン線を増便、中国路線については、需給動向に応じて成田＝瀋陽線、成田＝杭州線の増便、成田＝青島線の機材大型化を行います。

羽田発着路線

10月31日(日)からの羽田空港国際化により、昼間帯においては現行チャーター便をすべて国際定期便とするとともに、羽田＝台北(松山)線の開設、および羽田＝ソウル(金浦)・上海(虹橋)線・北京線¹の増便を行います。また、深夜・早朝時間帯においては、米国路線、東南アジア路線の開設を検討いたします。

1 中国路線については日中航空交渉の合意が前提。

関西・中部発着路線

一部低需要路線の休止減便・機種変更を実施し、コスト削減および収益性の改善を図ります。

成田空港へのフィーダー充実

7月1日(木)より、成田＝小松・広島線におけるアイベックスエアラインズ(IBEX)とのコードシェア便を増便し、両空港から米国西海岸路線への接続を可能とします。また、8月1日(日)より成田＝中部線を1日3便化し、中部圏からの国際線接続強化を図ります。

(2) 国内線事業の概要

引き続き、国内線を ANA グループ航空運送事業の基幹事業と位置づけ、時機を逃さない羽田発着路線の増便、北海道内路線再編含めたコネクションネットワークの拡充、更なる需給適合の推進などを実施することにより、収益性の向上を図ります。

北海道内路線の再編

7月1日(木)より、丘珠空港から北海道内各地を結ぶ路線(5路線/1日14便)を新千歳空港発着とし、新千歳空港を発着する道外路線との接続を可能とすることで、道内需要に加えて本州各地との乗り継ぎ需要の取り込みを図ります。

羽田発着路線の強化

8月1日(日)から10月31日(日)の間、羽田＝沖縄線を増便いたします。また、増枠に伴う羽田発着枠配分時点(現時点では2011年4月を想定)において、羽田＝徳島線の再開を計画いたします。

需要に適応した季節運航、期間増便

上記北海道内路線の再編に伴い、一部小型機路線の便数・機種を調整し、更なる需給適合を図ります。昨年度に引き続き、季節変動が大きい路線については、季節運航・季節増便を積極的に計画し、需要の取り込みを図ります。

(3) 貨物郵便事業の概要

昨年10月より開始した沖縄貨物ハブ事業を安定的に継続すべく、一晩のうちに沖縄を経由して海外5地点(上海、香港、ソウル、台北、バンコク)と日本国内3地点(羽田、成田、関西)を結び、引き続きエクスプレス貨物の増加を図ります。加えて、香港・青島・厦門線の増便など沖縄空港発着以外のフレターネットワーク増強(国際線週間便数合計で前期比5便増の35便)や、旅客便の貨物スペースも含め、さらなる事業性強化を図ります。

2. 内容

(1) 国際線事業

新規開設(成田発着路線)

路線	実施時期	現行	変更後
成田=ミュンヘン	2010年7月1日	-	777-300ER 7往復/週

* 関係当局の認可を前提としております。

増便(成田発着路線)

路線	実施時期	現行	変更後
成田=瀋陽	2010年3月28日	737-700 3往復/週	737-700 7往復/週
成田=杭州	2010年3月28日	737-700 4往復/週	A320-200 7往復/週
成田=ホーチミン	2010年3月28日	767-300ER 5往復/週	767-300ER 7往復/週

* これらの計画は関係当局の認可を前提としております。

新規開設・増便(羽田発着路線 / 昼間時間帯)

路線	実施時期	現行	変更後	備考
羽田=台北(松山)	2010年10月31日	-	767-300ER 14往復/週	
羽田=ソウル(金浦)	2010年10月31日	777-200ER 14往復/週	777-200ER 21往復/週	
羽田=北京	2010年10月31日	767-300ER 7往復/週	767-300ER 14往復/週	日中航空交渉合意前提
羽田=上海(虹橋)	2010年10月31日	767-300ER 7往復/週	777-200ER 7往復/週 767-300ER 7往復/週	日中航空交渉合意前提
羽田=香港	2010年10月31日	767-300ER 7往復/週 (深夜便)	777-200ER 7往復/週 (昼間便)	羽田午前発・ 香港午後発に変更

上記に加えて深夜・早朝時間帯に羽田空港を発着する米国路線、東南アジア路線の開設を検討いたします。

* これらの計画は、関係当局の認可を前提としております。

機種変更

路線	実施時期	現行	変更後	備考
成田=上海(浦東)	2010年3月28日	777-200ER 14往復/週	767-300ER 7往復/週 A320-200 7往復/週 777-200ER 7往復/週	919/920 便 959/960 便(復便) 921/922 便
成田=ホノルル	2010年3月28日	767-300ER 7往復/週	777-200ER 7往復/週	
成田=青島	2010年3月28日	A320-200 7往復/週	767-300ER 7往復/週	
成田=広州	2010年3月28日	767-300ER 7往復/週	737-700 7往復/週	
成田=北京	2010年8月1日	767-300ER 14往復/週	A320-200 7往復/週 767-300ER 7往復/週	905/906 便 955/956 便
中部=上海(浦東)	2010年10月31日	A320-200 7往復/週	737-700 7往復/週	

* これらの計画は関係当局の認可を前提としております。

休止・減便

路線	実施時期	現行	変更後	備考
関西=ソウル(金浦)	2010年3月28日	737-700 7往復/週	-	
関西=廈門	2010年3月28日	737-700 4往復/週	-	
関西=青島	2010年3月28日	A320-200 7往復/週	737-700 4往復/週	月・水・金・土 運航

* これらの計画は関係当局の認可を前提としております。

(2) 国内線事業

新規開設

路線	実施時期	現行	変更後
関西=旭川	2010年6月1日	-	1往復/日 (6~9月運航)

* 関係当局の認可を前提としております。

* 運賃については別添資料をご参照ください。

増便

路線	実施時期	現行	変更後
中部=秋田	2010年4月1日	1往復/日	2往復/日 (11~3月のみ1往復/日)
関西=函館	2010年6月1日	1往復/日	1往復/日 (6~9月のみ2往復/日)
成田=千歳	2010年7月1日	1往復/日	2往復/日
伊丹=松山	2010年7月1日	8往復/日	9往復/日
伊丹=高知	2010年7月1日	8往復/日	9往復/日
仙台=千歳	2010年7月1日	3往復/日	4往復/日
新潟=千歳	2010年7月1日	1往復/日 (6~9月運航)	1往復/日 (6~9月のみ2往復/日)
成田=中部	2010年8月1日	2往復/日	3往復/日
羽田=沖縄	2010年8月1日	9往復/日	9往復/日 (8~10月のみ10往復)

1 当該路線においては、北海道国際航空、アイベックスエアラインズの運航便とのコードシェアを予定。

* これらの計画は関係当局の認可を前提としております。

北海道内路線再編

路線	実施時期	現行	変更後
丘珠=稚内	2010年7月1日	1往復/日	-
丘珠=女満別	2010年7月1日	2往復/日	-
丘珠=中標津	2010年7月1日	3往復/日	-
丘珠=釧路	2010年7月1日	3往復/日	-
丘珠=函館	2010年7月1日	5往復/日 (土・日曜は4往復/日)	-
千歳=稚内	2010年7月1日	1往復/日	2往復/日
千歳=女満別	2010年7月1日	-	2往復/日
千歳=中標津	2010年7月1日	-	3往復/日
千歳=釧路	2010年7月1日	-	3往復/日
千歳=函館	2010年7月1日	-	5往復/日 (土・日曜は4往復/日)

2 整備等による運休あり。

* これらの計画は関係当局の認可を前提としております。

休止・減便・運航期間短縮等

路線	実施時期	現行	変更後
福岡=石垣	2010年4月1日	1往復/日 (4~10、2~3月運航)	1往復/日 (GW期間、7~10月運航)
中部=仙台	2010年4月1日	5往復/日	4往復/日
岡山=千歳	2010年5月1日	1往復/日 (6~9、3月運航)	1往復/日 (5~10月運航)
新潟=沖縄	2010年6月1日	1往復/日	1往復/日 (4~5、10~3月運航)
広島=千歳	2010年6月1日	1往復/日 (6~9月運航)	-
伊丹=仙台	2010年7月1日	6往復/日	5往復/日
伊丹=福岡	2010年7月1日	8往復/日	7往復/日
伊丹=大分	2010年7月1日	3往復/日	2往復/日
福岡=仙台	2010年8月1日	1往復/日	-

3

4

4

4

4

3 GW 期間:2010年4月29日~同年5月5日

4 当該路線においては、アイベックスエアラインズの運航便とのコードシェアを予定。

コードシェア便をあわせた路線ごとの便数は、現行通り。

*これらの計画は関係当局の認可を前提としております。

(3)機材計画

待望のボーイング787ですが、昨年11月に初飛行を終え、2010年度第3四半期(10月~12月)の受領に向けて着々と準備が進んでいます。

また、国際線用ボーイング747-400の全機退役が完了します。

2010年度のANAグループ運航機材の新規導入および退役計画は次の通りです。

新規導入		機数	退役計画		機数
ボーイング	777-300ER	4	ボーイング	747-400	3
ボーイング	787-8	8	ボーイング	767-300ER	2
ボーイング	767-300ER	5	エアバス	A320-200	1
ボーイング	767-300BCF	2	ボーイング	737-500	1
ボーイング	737-800	5			
ボンバルディア	DHC8-Q400	1			

(4)ANAグループの国際線旅客、国内線旅客および貨物郵便事業の生産量

事業規模前年比	国内線旅客便	国際線旅客便	貨物専用便
運航回数	98.6%	114.8%	130.2%
座席キロ	96.3%	111.2%	121.1%

ANAグループ運航便

以上